

「夏休みセミのぬけがら調査」実践入門コース結果報告

船橋市環境保全課

1 概要

夏の代表的な昆虫であるセミ(のぬけがら)を調べることにより、身近な自然への関心を深め、自然環境保全思想の醸成を目的に県立行田公園で実施した。

今年は2回目であり、船橋自然環境調査の市民調査員10名を講師に迎え、小学生以上の市民まで51名が参加した。

その結果、6243個のぬけがらを採取し同定した。

2. 調査

(1)開催日時 8月21日(日) 9時から13時

(2)会 場

千葉県立行田公園西側および行田団地集会所

(3)内容

県立行田公園西側内のセミのぬけがらを採取し、種名、性別を調べた。

(4)スケジュール

9:00 受付

9:20 オリエンテーション

主催者挨拶、講師紹介、採取方法解説

9:30 5班に分かれ、ぬけがらの採取

10:40 集会所に移動後、見分け方の解説、同定作業

12:30 調査結果報告、講師による評価

13:00 解散

3. 結果

(1)参加者数

一般参加51名、講師10名、ボランティア1名、調査応援2名の64名。

この内、入門コース体験者は19名であった。

(2)確認した種、ぬけがら数

5種6243個のぬけがらを確認したが、クマゼミは確認できなかった。

種別では不明分を除き、アブラゼミが4278個と全体の約81%を占めていた。

続いてミンミンゼミ(917個、17%)、ツクツクボウシ(47個、0.9%)、ニイニイゼミ(9個、0.2%)、ヒグラシ(1個0.02%)の順であった。

性別では、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミではオス・メスの数にほとんど差は認められないが、ツクツクボウシは、オスがメスの4倍であった。

平成17年行田公園西側」調査結果

	オス	メス	計	構成比%
アブラゼミ	2062	2216	4278	81.5%
ミンミンゼミ	442	475	917	17.4%
ニイニイゼミ	5	4	9	0.2%
ツクツクボウシ	38	9	47	0.9%
ヒグラシ	1	0	1	0.02%
クマゼミ	0	0	0	0%
判明分計	2548	2704	5252	100%
不明	不明	不明	991	
計	2548	2704	6243	

(3)前年との比較

平成12年の調査および昨年の調査結果と比べると、下の表のように、全体数は約70%増であった。種別では、アブラゼミ、ミンミンゼミで80%以上増加したが、ニイニイゼミ、ヒグラシは減少していた。

この理由としては、今年は羽化が遅れたため、木にとどまっているぬけがらが多かったと思われるが、6 - 7年前の産卵数が多かったためとも考えられ、増減理由を判断する上で、本調査を継続して実施することが大切であろう。

行田公園西側のセミのぬけがら経年変化

	平成12年	平成16年	平成17年	前年比%
アブラゼミ	2990	2283	4278	+ 87%
ミンミンゼミ	681	445	917	+ 106%
ニイニイゼミ	19	0	9	- 32%
ツクツクボウシ	45	13	47	+ 4%
ヒグラシ	3	6	1	- 67%
クマゼミ	1	0	0	± 0%
不明	0	910	991	+ 9%
計	3739	3657	6243	+ 71%

4. 講評

本調査も2回目となり、調査方法の模索の段階から一歩お進み、調査結果を評価し得るレベルへと進んだように思えます。

広い公園を一生懸命にぬけがらを探す子どもたち、目を細め虫眼鏡を覗く大人と幅広い年齢層の方が参加して初めて可能となる調査です。

毎年多くの方が参加して調査を続けたいと考えています。

